

囲いやま森の会 活動記録

2007.12.23 野口 功

日 時: 2007.12.18 (火) 10~12時 天気: 晴

記録・写真: 山田幸子

観察記録

今年最後の、囲いやまの森の観察記録です。

「帰り花」の話題を、今年は何度か耳にしました。ツツジやサクラなど、時期外れの花をつけることがあります。囲いやまでは道路側のヤマブキが、可憐な黄色い花を長い間咲かせていました。これから寒さが厳しくなってくると、ついつい寒さに負けてコタツにこもる猫(かじけ猫)のようになりがちです。でも、自然の生き物たちは、この寒さの中でもそれぞれに工夫しながら懸命に生きています。私たちも生き物の一種として、こんな時こそフィールドに出て、自然の厳しさを体感したいものです。

1) タンポポやナズナなどは、葉を地面に放射状に広げて冬を越します。これをロゼット葉といいます。葉の重なりが少ないので、太陽をたくさん浴びられる。寒い風をまともに受けないですむ、などの知恵が見られます。春になると、他の植物に先んじて成長することができますね。

2) 冬芽はよく見ると、とても興味深いものです。冬芽のすぐそばには、葉のおちたあと(葉痕)があり、それを合わせると面白い形に見えます。囲いやまでは、ゴンズイの冬芽が見やすいです。いろいろな樹木の冬芽を観察してみましょう。自宅近くのアジサイとオニグルミとカラスザンショウの冬芽を参考に添えてみました。

3) 秋から冬にかけて、鳥たちの多くは地味な鳴き方(地鳴き)をします。違いが聞き取れるでしょうか? ホオジロは「チチッ・チチッ」、アオジ「チッ・チッ」、ウグイスは「チャッ・チャッ」と舌打ちするような声。「ホーホケキョ」が待ち遠しいですね。

4) ジョロウグモは、夏から秋遅くまで、囲いやまでも見ることができました。網の中央にいたのはジョロウグモのメス。小さなオスは網の端の方で居候生活をしていました。雄は、交尾が終わると役目が終わります。雌に食べられてしまうこともあるようです。卵は、卵のうと呼ばれる袋の中に、400~1500個くらい入っています。この状態で冬を越して、翌春の5月下旬に孵化します。どんなところに産んでいるのか、探してみましょう。きっと、風雨を避けられるところに産んでいるはずです。早く子グモたちに会いたいですね。

5) ムラサキシジミは成虫で冬を越します。暖かい日には写真のような姿を見せてくれます。翅の表はきれいですが、裏は地味な茶色で、枯れ葉に擬態しています。

開花植物

木本 キツタ・ヤツデ

草本 セイタカアワダチソウ・オニタビラコ

実のついている植物 ネズミモチ・アオキ・マンリョウ・ゴンズイ

鳥 ヒヨドリ・シジュウカラ・モズ・コゲラ・ヤマガラ

昆虫 ムラサキシジミ

困いやまの森

2007.12.18 (火) 山田幸子
今回の写真は、春を待つ冬芽



ムラサキシジミ



アブラゼミの抜け殻



イヌツゲメタマフシ



クロモジの冬芽



ウワミズザクラの冬芽



ゴンズイの冬芽



ムラサキシキブの冬芽



シラカシの冬芽



アジサイの冬芽



オニグルミの冬芽



カラスザンショウの冬芽



シュンラン



タンポポゼット



ヤブコウジ



ヤマウコギ